

大きな大きなお年玉2つ（私事ですみません）

明けましておめでとうございます。

新年最初の通信です。正月の間に2つのうれしいお年玉をいただきました。完全に私事ですので、斜め読み程度で流してください。

まずは、1月3日の出来事です。

夕方5時過ぎに電話が鳴りました。私が電話に出ると、「増野先生でいらっしゃいますか。」という女性の声がしました。その声質とイントネーションに、「うん？」という不思議な感覚になり、次の「樋口と申します」の一言で、一気に38年前の自分にタイムスリップしました。

樋口先生は、私の教育実習の担当です。当時3学年の主任だった樋口先生のクラスで、それはそれはお世話になり、今の私の原点を創ってくださった大恩人です。

あれから38年間、毎年欠かさず年賀状で近況を報告し、樋口先生からも返事をいただいていたので、正月には常に教育実習時のことを思い出してはいました。

実習では学校をあげて受け入れて頂き、最終日には近く中華料理店で打ち上げをしていただきました。そのときの「鯉の姿煮」の味は今でも忘れられません。

現在85歳の樋口先生は、今年から年賀状の返事は直接電話をすることにしたことでした。「～したの。」という優しい横浜言葉（私も大学～新採1年目はそんな女性的なしゃべり方でした）、「あなたとは、一緒に虫を探しに行ったわよね。」「実習が終わっても、その後もずっと来ていただいたわよね。」など、懐かしいお話をしてくださいました。

樋口先生の「授業では、何か一つでもいいから子供達がハッとするようなことを入れるのよ。」という実習時の教えは、その後の新採での授業はもちろん、その後もずっと、そして校長となった今でも一番大切にしています。

そんな先生の突然すぎるお電話は、涙が出るほどうれしかったです。

皆さんも、教育実習の時の熱い思いを時には思い出してみてください。

もう一つのお年玉は、翌日にあった中学校時代の同窓会でのことです。

私は、前任は出身校の上宇部小学校の校長でしたが、その時、自分達の卒業記念品である「あおぞら橋」という大型遊具施設を撤去しました。児童には大人気な遊具でしたが、45年前に設置した遊具なので、いたるところが痛んでいて、予算をつけ修理しようと業者に見積もりを依頼しました。

しかし、業者からは、修理で安全を確保はできそうもない。作り替えた方がよい、という回答がきて窮地に立ちました。

この遊具の扱いはずっと懸案だったようで、設置当事者が校長となったことは、偶然とはいえ絶好のタイミングだったのかもしれない。断腸の思いで決断し、大金をかけて撤去しました。撤去時には涙が溢れて泊まりませんでした。

そのことを、いつか同級生に伝えて謝りたいと思っていたのですが、そのチャンスが同窓会で巡ってきました。上中は、上小ともう一つ琴芝小からも行く中学校だったので、上小のことを全体の場で話すのは申し訳ないと躊躇していたのですが、そんな私に、神様が大きなお年玉をくれたのです。何と、会の終盤の抽選会で当選（確率4/120）して壇上に上がる機会が来たのです。

名前を呼ばれたときは、鳥肌が立ちました。そこで、同級生に報告し、頭を下げる事ができました。これで、数年来の肩の荷が下りました。

正月早々の2つの出来事は、とても大きな大きなお年玉でした。元気を奮い立ててどうにかあと3ヶ月頑張りたいと思います。